

長野県革新懇ニュース

2014年7・8月合併号
(発行日7月10日)
年会費5000円(送料込)
振替 0510-3-15971

183

発行 日本と信州の明日をひらく県民懇話会
(長野県革新懇) 発行人: 山口光昭 編集長: 高村裕
〒380-8790 長野市県町593 高校教育会館内
TEL: 026-234-1231 FAX: 026-234-2219 メール: yamaguti@trust.ocn.ne.jp

野口しゅんぼう総決起集会

7月20日(日) 午後2時

安曇野スイス村サンモリッツ

(安曇野インターから10分)



1924年、青木村に生まれる。村会議員2期。農業などに携わりながら、在野の義民研究者として独自に調査を続ける。

為政者の言うことは つねに疑う

清水利益さん

(青木村義民顕彰会前会長)

反骨精神が脈打つ地域

○義民の里として青木村は有名ですが、その背景は？一言で言えば、青木村の村民性、伝統精神のようなものがあり、それが独特な考えとして定着してきたことだね。なぜ定着してきたかという点に二つの理由があったと思う。一つは、農民一揆やそれに類する事件は数多く発生しているが、それを率いた中心人物は村民に祀られ、尊敬されてきた。神として崇められた。村民から見れば、正しい考え、立派な行為とみなされてきたわけだ。為政者に楯突く不逞の輩ということではなく、村民

のために自ら命を賭して、立ち上がった人々である、そうふうに村民は捉えていたということだね。

もう一つは、時々支配者が代わるわけだが、新しい支配者に従順に従うわけではなかった。例えば、この地域は村上氏が支配していたが、その後武田が支配するようになる。このとき、村上の一族郎党がすべて越後に逃げたわけではなく、仕えていた重鎮や家来の一部はこの地に土着し、暮らしていた。そうした連中は、反武田の意識が強いわけだね。その後、真田の支配に代わっていくが、支配者が代わるたびに反権力という意識が強まっていったということだね。

た。大法寺の国宝三重塔は1300年代に造られたもので、見返りの塔として有名だが、東山道の沿線に建てられたものだね。すでにその頃から交通の要衝だった。浦野駅(ウマヤ)には15頭の馬が常時いた。ほかの駅では10頭が一般的で、このことから重要度がわかる。江戸時代も東山道は保福寺峠街道として利用され、松本藩主の参勤交代も行われていた。

三才山トンネルが抜けるまでは、上田と松本をつなぐ主要街道だった。明治24年8月、槍ヶ岳登山遠征のため、上田駅に降りたウォルター・ウエストンは、人力車で保福寺峠山頂に着いた。頂上からは槍ヶ岳・常念岳・乗鞍岳などのアルプス連峰が見え、その素晴らしい日本アルプスの眺めを称賛したという話は有名で、こんな逸話からもわかるように、人の往来や物流も活発で、当然、多くの情報も入ってきたわけだ。

宝暦一揆を率いた清水半平のお墓を偶然見つけた。実は、若い頃から郷土史に関心があり、いろんな本を読んでいたし、また、お墓に興味があった。周りの人間はあいつは気が変になっただんじやないかと言っていたが、当時は古文書を調べると、敷居が高かった。古文書などは名家にしかないから。なかなか見せてもらえなかった。そこへいくと手取り早いのはお墓。そこで、15歳の頃からお墓の研究をしていったわけだね。

あるとき畑仕事をしていると、親父が「あの土手のところに無縁仏があるが、どういってお墓かな」と呟いて、調べてみると言われたんだ。そこで倒れていた墓石を調べたら、命日が宝暦13年(1761年)3月2日と刻まれていた。それまでの基礎知識で、その日が宝暦一揆の首謀者が処刑されていた日だと知っていたので、戒名を見ると、刃了(ジンリョウ)と刻まれていた。戒名に「刃」というのは尋常ではない。赤穂四十七士の戒名もすべて「刃」が入っているんだが、刃なので命を失った者の戒名には共通しているということだ、それが清水半平の墓石だとわかったわけだ。

交通の要衝だった青木

○青木村の当時の状況は？この地には田沢・沓掛の二つの温泉があり、多くの文人が投宿していた。また、古くから東山道が通っている

偶然見つけた義民の墓

○清水さんの書かれた「反骨の群像」では、義民の墓を偶然見つけたことになっていますが・・・

コラム

「集団的自衛権」問題は7月1日に与党の自公両党が合意したということ、で新たな段階に進んだ。そして憲法九条は全く従来とは反対の立場の見解を押し付けられた。しかしそれは安倍政権が勝手に解釈していることであって、立憲政治のもとではそれは通用しない▼なぜか。それは憲法とは「国家の統治体制基礎を定める法」であるからで、政権が簡単に閣議で決めたので変えやすよというわけにはいかない。憲法改正に賛成している学者や内閣法制局長官を歴任した諸氏が容認できないと発言し、全国の市町村議会が反対の意見書をあげ、連日のように官邸前に数万人が押しよせているのは当然である。

にもかかわらず、強行する政権があるという現実。は動かしがたい▼革新懇は、共産党排除の社公合意がなされる中で、新たな国民的共同を構築しようということ誕生した。長野県では、満蒙開拓として送り出した県民の半分が犠牲になったが、そういう痛恨の思いがアジア太平洋戦争での犠牲に加わって戦後の出発をした。そして、70年間は戦争で「殺される」「殺す」ことなく進んできた歴史を新たに発展させるためにも邁進させなくてはならない【M】